

# 「総ぐるみ」新聞

平成二十七年一月九日

## 初釜を開催して、今年の活動の幕開け

理事長 宮崎 浩子

年明け一月九日（土）に、NPO総ぐるみ福祉の会は、恒例になっている「初釜」を事務所にて開催、今年の活動を開始しました。「毎年、同じ設え、同じ手順でお茶会ができることは、とてもめでたいことなのよ」といわれる大橋綾子さんの言葉を聞きながら、ご提供いただいた道具類によって、前日からお茶会の準備をしました。

初釜当日は、玄関にお正月の豪華な盛り花を飾り、食堂と並ぶ日本間をお茶席に設えて、皆さんをお迎えしました。

掛け軸は「松樹千年翠」、床には、松・白玉椿・金柑を備前の花入れに活け、仁清の色絵羽子板香合を飾りました。

緋毛氈を敷き、真台子に注連縄を張り、唐金の皆具と、例年の初釜と同様にお茶室を設え、お点前は、大橋さん、松尾幸子さん、手賀雅子さんが順次つとめ、一席目の正客は、着物姿がとて素敵な民生委員の利根川さんにお願いました。

お菓子は「いしかわ」の花びら餅、お薄を一服召し上がったから、席主の宮崎が一献と八寸を持って、ご挨拶に廻りました。酒の肴



あり、「型にはまらない楽しいお茶会で、とてもいいわ」という感想も聞かれました。今年も無事初釜をすることができて、きつと良い年になることと思いました。出席された方々が寄せてくださった感想を、次に紹介します。

◆初春の佳き一日の出来事  
利根川 和代  
風は冷たいながら優しい冬日中、ワクワクする気分で初釜の寿会に参加いたしました。ドアを開けると、クリーム色の晴れ着をお召しになった素敵な宮崎理事長が、出迎えてくださいました。

お茶席では、お点前の準備に余念のない大橋綾子様が、ご主人様の写真撮影に応じられており、阿吽の呼吸の打合せとシャッター音をしばし楽しませていただきました。

花びら餅をいただいた後、見事な大橋様のお点前で、まるやかなお茶を堪能させていただきました。改まった空気の中に、和やかな語りもあり、肩のこらないお茶会でした。

この地域でお互いにささえ合い、助け合っ  
ていこうという福祉の心がいつばいの方々  
にお会いし、語らうことができて、楽しく満  
足の一日を送ることができました。感謝です。  
◆初釜にお招きいただいて  
高本 朕子

寒いながらも冬晴れの一月九日、初釜にお  
招きいただき、総ぐるみ事務所に向いました。  
年初めのお抹茶をいただき、心新たにこの一  
年も頑張ろうという力がわいてきました。  
宮崎様、大橋様、その他の皆様方にたいへ  
んお手数をおかけしましたが、楽しいお茶会  
でした。皆様方共々健康に気をつけて、この  
一年楽しく過ごせるように心掛けましょう。

◆初釜

中 康行

一月九日、事務所で行われた初釜に出席しました。食堂脇の日本間に茶道具が配置され、緋毛氈が敷かれており、作法にのっとりて薄茶がたてられました。花びら餅を食した後にお茶をいただきましたが、初めは少し苦味を感じたものの、その後ほのかに甘味が口の中に広がり、たいへん美味しくいただきました。京都出身の私は、昔から正月三ヶ日はお屠蘇を飲み、結婚後も白味噌の雑煮を作ってもらい、食べています。この雑煮には、本来丸餅を入れるのですが、かなり以前から入手できなくなり、やむなく切り餅を入れています。そして、地元の上永谷天満宮に初詣するのを恒例としています。

◆初釜の思い出

新見 宏

恒例の総ぐるみ福祉の会の初釜。今年は何年にも比べて参加者が少なかったようですが、和服姿の女性も多く、華やいだ雰囲気の中で和気あいあいのひと時を楽しませていただきました。

「初釜」というと、今から数十年前の新人社員の頃を思い出します。私が入社した会社では、新入社員は全員合宿の集合教育が終わると、各地の工場に分散配置されて、現場実習となり、製造業の「モノ作り」の精神を叩き込まれました。毎日、油と汗にまみれての

生活が続く夏のある日、実習先の上司から、茶の湯を勧められ、仲間と共に参加しました。訪れた茶の席は、天井クレインの轟音鳴り響く実習現場とはまったく異次元の世界で、心が洗われるようでした。

しかし、その頃は高度成長時代の真ただ中。現場実習は年末で打ち切りになり、建設されたばかりの新工場へ赴任を命じられました。年明けになんとか参加した初釜は、若き日の最初にして最後の初釜となりました。

イベントのお知らせ

「医療講演会と男性コーラス」を行います。高齢者の胃腸のお話しです。コーラスは男性20人です。どなたでもご参加は自由で、無料です。お誘い合わせてお越しください。

NPO総ぐるみ福祉の会主催

「医療講演会」と「男性コーラス」  
マジックと社交ダンス披露を含む

日時：平成27年2月22日（日）

午後一時～四時

会場：西洗港南プラザ自治会館

◎医療講演会

午後一時～二時二〇分

講師：横浜市立大学医学部消化器内科  
医学博士 飯田洋先生

◎男性コーラス（マジックと社交ダンス）

午後二時三〇分～四時

～介護の現場から～

認知症の症状がでてきている人の介護

80歳になると、4人に1人が認知症に罹ると言われている。後期高齢者になると、ちょっとボケたことをすると、自他共に認知症になったかなと不安になる。

残念なことにもうすでに症状が現れてきた人を介護することがある。ケアマネジャーが立てたプラン通りに介護をしたいと時間に追われたり、介護内容ばかりに、とらわれたりしがちだ。

しかし、まず人と人の付き合いかたを重視して、心して介護に当たらなくてはいけないと、現場ではヘルパーさんは悩み、持っている能力をフルに発揮して介護する。

人間は過ごしてきた過去に各人貴重な人生がある。過去の生活を思い【①優しく接する ②否定しない ③逆らわない ③認めてあげる】などを心得て介護しなくてはならない。

認知症になって、症状が現れ始めたとき、早く外来受診をして心療内科に相談をして欲しい。認知症の人は常に不安を持った状態にいるので、受診をして安心した状態で過ごして欲しいと思う。（一柳 朗）